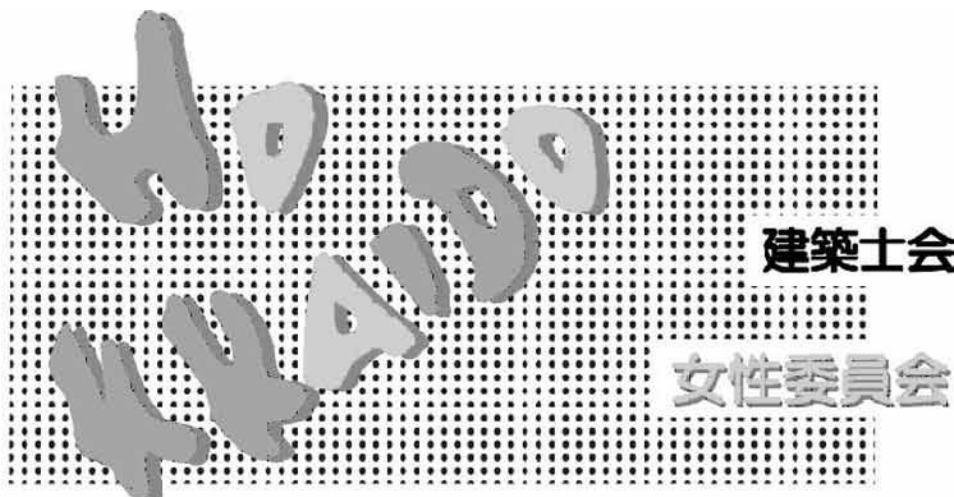


No. 53



## 全国女性建築士連絡協議会 京都大会に参加して

札幌支部 新海 直美

平成24年2月17・18日と京都にて表題の大会（以下全建女）が開催されました。本来であれば、昨年8月に開催される予定でしたが、東日本大震災を受け、延期となったの開催でした。

全建女は、建築士会に所属する全国の女性建築士が、研鑽を目的として、各地での活動や技術などの情報交換を年に一度行っているものです。建築業界での女性ならではの感じ方、取り組み方の話などを伺っていると、自分も頑張ろうと気力を頂けます。それこそが、大きな目的のひとつなのではないかと感じます。

今年は過去最多の約500名の参加があったとの報告でした。



1日目、東日本大震災の報告として、岩手・宮城・福島から報告がありました。仮設住宅、原発の問題、大きくは取り上げられない余震による被害。現状のコミュニティの問題など、現地では難問が山積みです。お話を伺いな

がら、当時よりは気持ちが離れつつあった自分に気づき、反省をしました。

北海道建築士会女性委員会では、2日目の分科会にて、高校の家庭科の先生たちと行っている住教育セミナーの取り組みを発表しました。

分科会は、【景観まちづくり】【環境共生住宅】【健康住宅と素材】【建築物の再生活用】【歴史的な建築とまちなみ】【子供と住環境】【高齢社会】【集まって住む】の8つの分野で、各地での取り組みなどが発表されるのですが、私達は、この中の【子供と住環境】にての発表となりました。

北海道女性委員会の子供と住環境の取り組みは、平成11年から始まっていて、13年継続されている活動です。その活動の中で作られた冊子「子どもをはぐくむ住まいづくり」をきっかけに始まった、家庭科の先生と行っているセミナーの4年間の活動を、室蘭支部の高木宣恵さんと私で発表しました。

以前にも全建女で報告をしていたこともあり、活動を覚えて下さっている方からはその継続性について、お褒めの言葉を多く頂きました。私は、北海道建築士会に入ってまだ数年ですが、こうやってメンバーが入れ変わりながらも、継続できているのは、テーマの奥深さと、諸先輩の先を見据えた行動の成果の賜物です。

鳥取県からも、小学生に向けた体験学習の報告がありました。躯体の大きな模型を作って、筋交いがあるのとないのとでは、強度がどれだけ違うかを子供に体感させる取り組みの報告が、とても興味深かったです。

今年は各分科会で、フィールドワークとして京都の歴史的街並みの見学がありました。明倫学区の「釜座町 町家」「吉田家（京都市生活工芸館・無名舎）」を見学し、マンションが建ち並び、昔ながらの街並みが変わりゆく中で、町内会や祭りを継続してゆく為の取り組みと、町屋の再生についてお話を伺いました。



建物や街並みを見るのは単純に楽しくもありましたが、失われつつあるコミュニティをいかに繋いでゆくに情熱を傾けている方々の想いを直に聞いたことは、とても貴重な経験となりました。

近頃は、web上でたくさんの情報を手に入れることができますが、実際に見て、会って話を聞くということが大切だと改めて感じた経験となりました。